

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第115号(2016. 10. 1)  
事務局 川西地区自主防災会

## ～ ライフライン事業者として災害に備える ～

四国電力(株)高松支店 総務部

日頃は、弊社事業に対しまして、ご理解ご協力を賜り誠に有難うございます。

さて、四国電力高松支店は、香川県内ほぼ全域(小豆島など一部地域を除く)を管轄区域としており、発電所で作り出された電気を、総こう長1万kmを超える送電線や配電線を使ってお客さまにお届けしています。

私どもでは、お客さまが常に安心して電気をお使いいただけるように、発電設備や送電・配電設備などの日常的な巡視・点検といった保守に万全を期すとともに、災害時の対応能力の強化にも取り組み、電力の安定供給に努めています。

このたびは、貴協議会会報誌への寄稿の機会を頂戴いたしましたので、当支店の防災対策についてご紹介させていただきます。

### 1. 高松支店ビルの防災機能

本年2月末に竣工し、6月から高松支店が業務を行っている高松電気ビル(高松市室新町973-1)は、県内の電力安定供給のための第一線事業場であり、大規模災害時の防災拠点としても位置付けられています。



【高松電気ビル・全景】

このため、建物本体には、地震による揺れを低減する免震構造を採用し、3日間連続運転が可能な750kVA非常用発電機や燃料油タンクの設置、ビルへの2回線受電といった代替用の電源対策も講じております。

また、常設の災害対策室や敷地内には災害復旧用の資機材や後方支援物資を備蓄する倉庫棟を備え、迅速な初動対応が可能な平面駐車場も数多く確保するなど、防災機能の充実を図っています。



【非常用発電機】



【倉庫棟と平面駐車場】

## 2. 災害対策本部の設置と自主出動基準（迅速な災害対応体制の確立）

大規模災害が発生した場合には、ただちに「災害対策本部」を設置し、被害状況の収集や復旧計画の策定・指示、自治体など社外関係機関との情報連携などを行います。

また、夜間・休日などの勤務時間外に、突発的災害（大地震）が発生した場合は、「自主出動基準」という出社ルールにもとづき、災害対策要員は、会社からの連絡を待つことなく、速やかに自主出動して初動体制を確立し災害対応にあたります。



【災害対策本部（防災訓練の様子）】

		出動基準（自主出動）	
		震度1～4	震度5弱・5強 震度6弱以上
本店 （事務局長）	災害対策本部 （事務局長）	（当社供給エリア内で発生）	
支店 （災害対策本部 （事務局長））	一般災害時 と同様に電 話呼出等によ り対応	【当該支店の 管内で発生】 例えば、感震器 内で震度5弱を 記録した場合、 感震器・湧出 支店が該当	【当社供給エ リア内で発生】 応援の必要性 を判断するため 全支店出動
	災害対策本部 （復旧要員）	復旧作業が必要 な場合、災害対 策本部の判断に よる電話呼出等 による出動	【当該支店・事 業所のある 管内で発生】

（注）災害対策要員は、可能な限り所属部署に出動する。  
また、一般従業員についても、所属部署のある管内で震度6弱以上の地震が発生した場合、可能な限り後方支援のため所属部署に出動する。

【自主出動基準（従業員携帯用カード）】

## 3. 災害対応の資機材の配備

災害発生時には、早期に電力供給を再開できるように取り組んでまいります。災害対応に、様々な設備・機器を配備しておりますので、そのいくつかを紹介いたします。

### ① 高圧発電機車

病院や避難所等の重要な施設が停電した場合、配電線の復旧までの応急的な送電などに使用する目的で、高圧発電機車を配備しています。



【高圧発電機車】

### ② サポートカー

被災地での前線基地として、支店・営業所の災害対策本部との情報連絡、被災地における復旧計画の指示、巡視や復旧作業の進捗管理を行うために必要なPCや衛星携帯電話等の通信機器を搭載した車両で、現地の情報や災害対策本部からの指示を踏まえたよりの確な作業が実施でき、早期復旧につなげます。



【サポートカー】



【サポートカー内の通信機器】

### ③ エアーテント

被災地での復旧要員の災害復旧拠点とするため、エアーテントを配備しています。

このテントは、復旧作業が長期に亘る際には、簡易マット等を持ち込み、被災地での野営設備としても活用します。



【エアーテント】

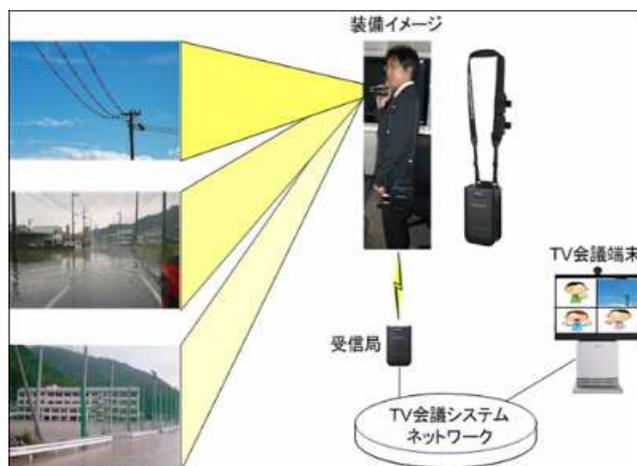
### ④ 非常用の情報通信機器

地上災害の影響を受けない専用の衛星回線を使用して、電話・FAXのほか画像伝送もできる「V-SAT（衛星通信設備）」を配備しております。この装置は、可搬型（約20kg）で携行できるため、災害現場からの連絡手段としても活用できます。



【V-SAT（衛星通信設備）】

災害現場で撮影したビデオカメラ映像を、リアルタイムに社内のテレビ会議システムに情報伝送できるモバイル映像伝送ツール「ロケーションポーター」を配備し、災害現場と災害対策本部等で即時に情報共有することが可能です。この装置は、携帯電話回線が使用できない場合にも、衛星回線を使用し、情報伝送が可能となっています。



【ロケーションポーターと活用のイメージ】

#### 4. 大規模災害発生を想定した防災訓練の実施

支店管内の全事業場が参加する「支店防災訓練」を毎年実施し、災害時の初動対応や支店・営業所間での情報連絡が迅速・的確に行えるかを検証するなど、災害対応能力の向上と従業員の防災意識の向上を図っています。

また、技術部門では、大規模な設備被害を想定し、初動応援隊の派遣・受入、設備巡視や復旧作業を実際に行う実働訓練を定期的実施し、早期復旧に向けた対応能力の向上を図っています。

さらには、(株)四電工や電気工事組合などの工事関係者にも参加いただき協働で実施する訓練や、各自治体主催の訓練への積極的な参加を通じ、関係各所との協力体制の強化にも努めております。



【非常災害実働訓練の様子】



【四電工と協働実施の大規模災害応急復旧訓練の様子】



【鉄塔上での復旧訓練の様子】



【送電線上での復旧訓練の様子】

## 5. 終わりに

四国地方では、将来「南海トラフ地震」と呼ばれる巨大地震、広い範囲で強い揺れや津波が発生し、大きな被害が発生すると想定されています。

私どもは、このような大規模災害に備え、電気という重要なライフラインを預かる企業として、今後も、ハード・ソフトの両面で、防災対策の充実・強化を図っていくとともに、災害による停電発生時には、可能な限り早期に電気をお届けできるよう全力で取り組んでまいります。

最後になりますが、以下のとおり、地震・台風・水害など、災害が発生した時にご注意いただきたい事項をご紹介します。皆さまの防災対策にお役立ていただければ幸いに存じます。

### ～ 災害に備えて ～

当社HP【<http://www.yonden.co.jp/life/safety/disaster.html>】に掲載中

#### <地震がグラッと来たら！>

**スイッチを切ってプラグを抜いてください。**

- ・電気ストーブやアイロンなどの電熱器具は、火災の原因になりやすいので、すぐにスイッチを切ってコンセントからプラグを抜いてください。
- ・日頃から電熱器具のまわりには、燃えやすいものを置かないようにしてください。

**避難するときはブレーカーを「切」にしてください。**

- ・家の外に避難するときは、電気の消し忘れによる事故を防ぐため、念のためブレーカーのスイッチを切ってください。
- ・日頃からブレーカーの位置を確認しておくとうよいでしょう。
- ・地震を感知して自動的に電気を遮断する装置も市販されています。

#### <台風シーズンにそなえて>

**アンテナは大丈夫？**

- ・アンテナなどが強風で倒れ、電線に触れると危険です。古いアンテナや風でよく揺れるアンテナ、また、支線の切れているアンテナは、電気店に相談して、早めに点検・修理してもらいましょう。

#### <切れた電線に注意>

**切れた電線には絶対にさわらないでください。**

- ・切れて垂れ下がった電線には絶対にさわらないで、すぐに、お近くの四国電力まで連絡してください。
- ・特に夜間や早朝、雨の日は垂れ下がった電線が見えにくくなるのでご注意ください。
- ・電線に樹木や看板、アンテナなどが接触している場合も大変危険ですので、お近くの四国電力まで連絡してください。

#### <災害の後、再び電気を使う時>

**壊れたり水につかった電気器具は使わないでください。**

- ・壊れたり水につかった電気器具は、漏電などの原因になるので、電気店などで点検してから使いましょう。

**ガスのにおいがするときは電気を使わないでください。**

- ・ガスのにおいがする時は、電気の使用を避け、ガス栓を閉めてください。
- ・窓を開けて換気し、最寄りのガス会社に連絡してください。

#### <非常持ち出し品の準備をしておきましょう>

- ・災害はいつ何時起きるかわかりません。日頃から非常持ち出し品を準備しておき、いつでも持ち出せる場所に備えておきましょう。

# 事務局だより

平成28年10月

今月の事務局だよりは、会長活動報告とお願いです。

## 1. 第18回自然塾全国大会 in 羊蹄山麓塾に参加

月尾嘉男東大名誉教授を塾長とする全国の自然塾が年1回あい集って交流を深める全国大会を本年度は北海道倶知安町にある美蹄山麓塾の主催によって、9月16日(金)～9月18日(日)に開催され、私(岩崎)の所属する瀬戸内海塾も岩崎と岡の2名が参加しました。

①初日(9/16)は前夜祭をニセコ東急アルペンホテルにて行った。月尾塾長をはじめ、塾生である北広島市長の上野さん、倶知安町長の西江さん含め、約55名の参加



②2日目(9/17)は、NIKIヒルズのワイナリー工場を見学。現在は、1万5千本のワイン製造を18万本製造まで拡張の予定。調達資金は政府系ファンドと創設者(石川社長)の私財



・朝ドラで有名になったニッカ余市工場を見学



- ・ 15 : 30 より、全国大会の開催
- ・ 月尾塾長より「IoT 社会の現実」というタイトルによる講演
- ・ 17 : 00 より、ミルク工房の高井氏の講演
- ・ 17 : 40 より、農業青年達のパネルディスカッション



◎交通便については

高松——神戸三宮・・・神戸空港——新千歳空港・・・小樽乗換・・・JR 俱知安駅  
 <高速バス> ポートライナー スカイマーク 電車 電車

## 2. 県内自主ぼうの皆様へ

本年度シェイクアウト訓練は

11月4日（金）14:00 より実施します。

自主防災関係組織の申し込み状況が今一步ですので、お声がけいただき多くの参加申し込みをお願いいたします。

かがわ自主ぼう連絡協議会 会長 岩崎正朔



お申し込みは以下のページ、または、同封しているチラシ裏面からお願いします。

<http://www.shakeout.jp/event/kagawa/contacts.shtml>

### 編集後記

今月の防災減災の輪は、四国電力（株）高松支店 総務部様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。